

おうちの
みんな
読んでね



令和 迎春 五年

信仰が深まるというのは
疑いが深まること
疑いもまた何かの意味である

批評家・随筆家・若松英輔（一九六八～）



NHK・こころの時代で昨年10月「問われる宗教と“カルト”」とした番組が二週に渡って放映された。旧統一教会関連の解説がよくTV登場された櫻井先生や脱会活動の現場をもつ牧師先生、宗教学者や僧侶など6名による対談は、示唆に富む発言にあふれ大変見応えがあった（1月に緊急書籍化）。中でもクリスチャンでもある若松氏の発言は熱く鋭い。

カルト団体の勧誘と論理という話の流れで、若松氏は上記に続けて「人は疑うことでしか発見できない問いもあるし、他者と繋が

ることもある。しかし既存の宗教は、確信することだけをよい状態として導いてきたのではないか」と投げかけた。ハツとした。

確かに、信じる者は救われるというマインドからすれば疑う態度は矛盾するし、大抵の宗派は疑いや迷うことについて否定的だ。

しかし人には疑い迷う自由もあり、距離を置くことが必要な場合もある。本当に救われる道ならば、金銭や身分や経歴など世間の尺度はなじまない。誰もが皆等しく尊い存在なんだと、宗教は今語るべきと氏は力説する。

三世のことは 何事も何事も お念仏の助縁

す。生活の基本である衣食住は、お念仏を支えるための生業であり、お念仏を生活の中心にして生きることを薦めるのです。

私たちの自我は、自分の都合の良し悪し、損得、快不快、好き嫌い、有用無用という価値判断によって行動します。このような煩惱が生活基準になっている中で、もしお念仏の教えを抛り所にしたとしても、自我中心から免れたわけではありません。称名念仏は私が申す行為でありながら、それは決して私の行為に価値があるのではなく、ただ南無阿弥陀仏と申す響きを通して、心の奥底に聞こえてくるものに注意を傾けることが大切と、信楽師は「生活念仏」を強調されました。著書では

「念仏において、私自身が問われ、砕かれてゆくのです。称名念仏とは、またそのまま仏から私への間名念仏、仏の呼び声を聞き、仏に念ぜられて生きる、ということの目覚めでなければなりません」と論されます。

仏縁に触れ、お念仏を相続しながら、次第に仏様の心が私に届き、仏に念ぜられているなど感じた時、その一種の目覚め体験を「信心」と言います。自己中心の生活の中でも、仏の智慧と慈悲を願う「念仏のみぞまこと」（歎異抄）という基準がいただけるのです。（引用「月々の言葉」）

◆信楽師が著書『この道を行く』で示したのは、法然聖人の『和語燈録』の引用「衣食住の三は念仏の助業なり」です。

法然聖人は、人生の目的はお念仏を申すことにあり、お念仏を申しやすいように人生を送りなさい、生活様式も一人一人にあつていければよいと仰いま

ウチでは若い者がお仏壇のことやお参りに出てこないんです。

教えて、お坊さん

③②

お寺関係は、だいたいが親とか年寄りの分担になってるからね。離れにいるなど住宅環境や勤め先の状況にもよるし、世俗の最前線にいれば仏事に積極的なほうが稀。といっても土日など休みの日に調整して小さな子も一緒に出てきたり、親族らが一堂に会するなどのお宅もある。普段のことは分からないが、できたら少しずつ見させて覚えさせ、やらせてみてほしい。お寺からすれば、次代を担う若い人と面識を持ち、話ができるのは嬉しいことだ..。と、以上は表向きの話。

仕事や遊びに忙しい世代に強く言っても反発されるだけ（経験者はよくわかる）。どの宗教を信仰するかのも自由も保証されてしかるべきだ。いずれ何かにつまづいた時、あるいは親が衰えて否応なしにせざるを得ない時、仏縁の機会が巡ってくる。

そこで注意すべきは、本人が何の知識もないままネット情報や、反社会的団体の勧誘に巻き込まれないことだ。逆に、悩み苦しき困惑する中、きちんと話を聞いてくれる人や良質な書籍や助言をもたらす人が側にいたらよい。その意味では僧侶や親の資質・関わりの問題だ。普段の後ろ姿が自然と子供に沁み渡っていく。心しよう。

映画「ブータン 山の教室」(2019) ～厳しくも温かく 豊かさを問う

◆昨秋、武生の金剛院さんらがこの映画の自主上映会を開いた。1970年代に前国王がGDPよりGNH（国民総幸福量）が重要とした仏教国、一度は行ってみたいが現実は..？

映画は、やる気のない青年教員の主人公が、徒歩で一週間！もかかる標高4800mの僻地ルナナ村に赴任し、伝統を守りながら暮らす村人や子供たちとの交流を通して、現代人がマヒさせてしまった本物の豊かさを描く、といったもの。

物語はフィクションだが、実在の村で電気は不安定な太陽光パネルのみ。登場する女子は名前も家庭環境もそのまま。圧倒的な秘境映像と、透明な声で祈りながら歌う「ヤクに捧げる歌」が琴線に触れる。

会場を後にして帰宅するとき、見慣れた街の風景と自分の現代生活に軽いカルチャーショックを覚えてしまった。車、スマホ、身の回りの便利なモノが妙に白々しい..。たまにこういった珍らかなものに触れないと、日々が惰性に流されてしまう。

村の少女・ペムザムを観るだけでも必見に値するし、印象的な場面も多く考えさせられる。子供たちの純真で真っ直ぐな学ぶ姿、ヤクの歌の由来となる輪廻的な説話や、教員を辞めて海外で歌手になるという主人公に「我々の国は世界で一番幸せな国だと言われているが、その国の若者が幸せを求めて外に出てゆくのか」と呟く村長、ビニール製の長靴を器用に汚さずに歩くガイドの青年が「これを買った時は嬉しく抱いて寝ました」とか、村長らが歓待で粗末な料理を囲み「これは新年以来のご馳走ですね」と喜ぶ姿などなど。

人口70人という村の壮大な景色と女性の民謡から始まる物語は、冬の前に惜しまれて村を去った主人公が、420万人大都会シドニーのバーでギター弾き語りをしているシーンでラストとなる。喧騒とした店内ではBGMでしかなく、彼は演奏を止めてしまう。訝しが客席。彼は少し間をおいてあの「ヤクに捧げる歌」を歌い出す..。見事な対比であるとともに、観る者もまた主人公のように、都市生活と大自然での暮らしの間を往復するだろう。

今の日本では多くの生活が暑さ寒さから守られ、あらゆる食料が商品として供給され、電気ガス水道はスイッチひとつで24時間恩恵を受けられ、世界中の情報にアクセスできる。しかしそれはこの数十年のこと。ヒトが長く自然とともに暮らしてきた「遺伝子」は、過酷な環境においてこそ目覚め、体ごと生きる喜びに震えるのを待っているに違いない。



三番目は勝手に創作してみたが、うーむイマイチか。昨秋唐突に、前政権もびっくりの政策大転換が政府与党内で打ち出された。専守防衛という長年の旗印は根っこから揺らぎ、福島事故の始末も遅々とし核廃棄物処理のメドも立たないのに、一体なぜ?? たぶん、元首相のおつきあいから学んだのだろう。不安をあおって脅せばカネ惜しみはしないと読まれたか？

不幸になるぞと
集金するカルト
攻撃されるぞと
増税する政府
CO2増えるぞと
311忘れる
政財界
(超覚寺様掲示板に加筆)

■近況ご報告：新年あけましておめでとうございます。衆徒の木村共宏(釋權空)です。

昨年8月29日に築地本願寺の副宗務長に就任致しました。着任して4ヶ月ほど経ちましたが、法務に宗務と、大変慌ただしく過ごしつつ、身の引き締まる思いで日々励んでおります。

築地本願寺は1617年に創建された江戸浅草御坊を起源としています。1657年明暦の大火で焼け落ちたあと、火除け地を作るため幕府から与えられた江戸



八丁堀沖の海上を埋め立て、土地を築いたことから「築地」という名前が生まれました。

1923年の関東大震災によって再び焼失し、現在の本堂は東京帝国大学名誉教授の伊東忠太博士の設計により、1934年に建立されました。インドの古代仏教建築を模した外観がオリエンタルな雰囲気を出し、観光名所にもなっています。現在は国指定の重要文化財になっており、内装もほとんど建築当初のままで、昭和レトロ好きの身としては大変嬉しい環境です。

とはいえ喜んでばかりもいられません。京都の本山(西本願寺)並みにお勤めが多く、また本山と築地だけで厳修するような

作法が多々あり、その数は二十を超えます。宗務長ともう一人の副宗務長の3人でこれらのお勤めの導師を勤め、導師独吟(いわゆるソロ)もあります。お寺出身でもなく、僧侶専業でもなかった私にはどれも初めてのものばかり。マスターに必死です。

晨朝勤行は毎日、日中法要、逮夜法要もしばしばあり、加えて週末には休日当番が回ってきます。休日には結婚式があることも多く、司婚者として新郎新婦の門出に立ち会

うことは嬉しいことでもあります。

法務と同等以上にマネジメントの仕事も大変ですが、幸か不幸か築地本願寺の中に社宅があり、通勤時間0分で、仕事に集中できる環境が整っています。おかげで寝る時間以外はほとんど働けるという、嬉しい悲鳴をあげております。最近は息抜きに少し料理をする時間を取ったりしています。

さて、本年は宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年に当たります。築地本願寺においても来年2024年に慶讃法要を予定しております。皆様には京都本山への参拝に加え、東京築地本願寺にも足を運んで頂けますと幸いに存じます。

本年も宜しくお願
い申し上げます。



▼昨年は先代の往生もあり、家人も心身に変動があったり、家中は今ほぼワンオペ状態。皆様には引き続き何かとお世話になります。

国内外の情勢でも昨年は大きな変動が起きました。今年はコロナ禍は収まるとしても、今後の変動にはしっかりとした芯をもって、安定の方向へ臨みたいものです。ね。(S)

お詫び…前号の表題の一部に誤りがありました。正しくは「NO 97、秋号」です。

令和五年行事予定
・お年頭：1月2日(祝月)終日
・永代経法要：3月21日(祝火)昼3時
・七日盆：8月7日(月)終日
・本盆：8月15日(火)終日
・報恩講：9月23日(祝土)昼3時、夜7時
・前住職一周忌法要：2月18日(土)昼3時